環境新聞

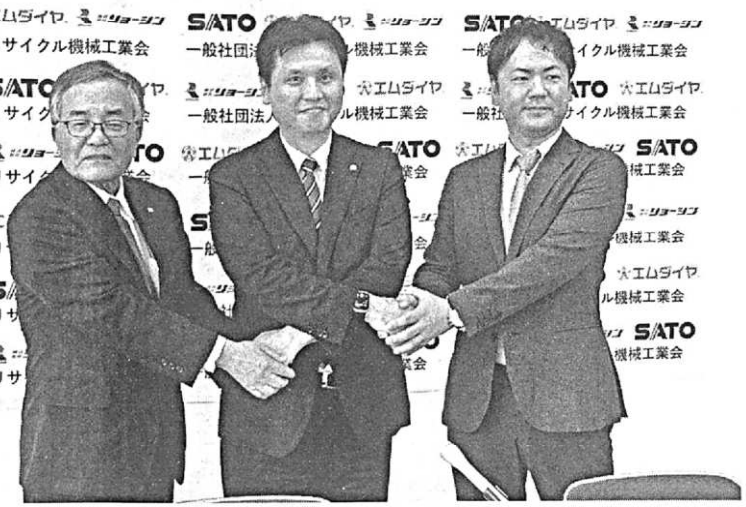
「リサイクル機械工業会」を設立

エムダイヤ、佐藤鉄工、リョーシン

富山発、持続的な社会構築に寄与する機械装置を提供

富山県内に本拠を置くエムダイヤ（滑川市）、佐藤鉄工（立山町）、リョーシン（富山市）の3社は5月7日に一般社団法人「リサイクル機械工業会」を設立、6月17日には富山市内で設立記者会見を開催した。3社はリサイクル機械の開発、製造、エンジニアリング、販売等の事業を行っており、同工業会は資源の有効活用を追求し、持続的な社会構築に寄与する機械装置を提供することを目的に設立された。代表理事に就任したエムダイヤの森弘吉代表取締役は、「さまざまな団体がある中で、リサイクル機械に特化した一般社団法人はおそらく日本初の試みで、それが富山発であることはとても意義があると確信している」とした。

森代表理事のほか、佐藤鉄工の坂本良文代表取締役社長、リョーシンの高野晃代表取締役社長がそれぞれ理事に就任。初年度は3社で活動を行っていく。森代表理事は設立記者会見で同工業会設立について、「世界的に環境問題への対応が急務となる中、廃棄物の有効活用や資源循環の仕組みづくりがこれまで以上に求められている。しかし、こうした社会課題に1社単独で対応するには限界がある。そこで3社がそれぞれの強みを持ち寄り、業界の垣根を越えて新たなステージに進むべく、リサイクル機械工業会を立ち上げた」と説明した。



設立記者会見に臨んだ（左から）佐藤鉄工の坂本良文代表取締役社長、エムダイヤの森弘吉代表取締役、リョーシンの高野晃代表取締役社長

同工業会は、資源の有効利用を追求し持続可能な社会構築に寄与する機械装置を提供することを目的としており、そのために主に3つの活動に取り組んでいく。1つ目は、営業案件や販売協力を通じた人的交流、情報共有。まずは各社の特徴を把握するため、相互の会社見学を含めた勉強会を実施する。将来的には展示会の共同出展や、さまざまな企業や関係団体が開催する企業見学会等の共同受け入れなども行っていきたい考えだ。

2つ目は補助金や支援制度への対応。さまざまな補助金や支援制度を活用する際に、個別企業で取り組むよりも一般社団法人としての組織の方が円滑に進めることが可能だと判断した。こうした制度に対しては、富山県や国などの行政機関と連携を図り、迅速に対応していく方針だ。

3つ目は共同での求人活動の検討。地方における人口減少に伴い、人手不足が顕在化している。そうした中で、日本人のみならず外国人の採用も含めて、将来的に共同での採用活動の可能性について検討していく。森氏は、「これらを踏まえて環境の課題を直接受け止め、即応性のあるソリューションを社会に届けるための協力体制の構築に注力していく」とした。

各社の強みについて、エムダイヤの森氏は、「当社は独自技術にこだわっている。他社にないわれわれ独自の技術を用いて製品を製造し、独自の販売ルートで展開している。特に分離破砕、剥離といった物理的な破砕に伴う技術を持っているのが強みだ」とした。佐藤鉄工の坂本氏は、「当社はクロスフローシュレッダという特殊な機械で、さまざまなものをいかに細かく砕いて、いかに分離しやすい状態にしていくかということに注力している」と話した。リョーシンの高野氏は、「世界の最新技術を日本のお客様へ、ということで世界10カ国20社と代理店契約を結んでおり、より採算性の高いものに注力して世界に目を向けて輸入販売を行っているのが特徴」とした。

加盟会社を拡大していくかなど今後の同工業会の方向について森氏は、「初年度はこの3社でじっくりと組織づくりに取り組み、その後の展開については2年目以降に検討していきたい」と語った。